

変える



ごみを出す人と片づける人の人間関係。
ごみを棄てる側と棄てられる側の人間関係。
近ごろ生活態度のなかでは、それぞれが自分の家だけをきれいに
それだけはすごく熱心にどうかするとさまざまな洗剤を使い
危険であろうと水びだしであろうと厄介なもの全て
何でもごみに出している。
影響なんて考えていないことが多い。

を街



リサイクル社会目指し

ごみ戦争

解決の主役はあなたです。

一人ひとりの

意識と暮らしから

ごみをどうするか。何でもかんでも袋に詰めて家の外に出してしまえばそれでいい。自分の家をきれいにすることにきわめて細心で、厄介なもののみならず黒い目くしのごみ袋にポイ捨て。そのことがヨソの環境を汚していることにはほとんど見ぬふり。関心を示さない。もちろん、そ

の汚れをとるためにどれだけのお金がかかっているかも知ることがない。街人もきらびやかな開発計画を押し進めるときに、街の空間利用のなかに、ごみをリサイクルしたり、最終処分する考えをもたないともうだめです。ごみの後始末を考えずに、「どこかに押しつけばいい」という

態度ではもはや、私たちの生活も、都市計画も成り立たないと覚悟することが今大切なのではないでしょうか。「誰かが処分してくれる。」そうやって他人まかせにして、そして市も長い間、リサイクルの視点をもたないで、ごみをそのまま放置してきたことが問題の根っ子です。